



2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会主催 多言語対応・ICT化推進フォーラム ～人と技術によるおもてなし～

先進的取組事例やICTの最新技術動向など
多言語対応に役立つノウハウをまとめてご提供します。

平成27年7月22日(水) 13:00～17:30 (終了予定) 開場:12:30

【対象】多言語対応に取り組む全国の自治体や民間団体など

会場のご案内

講演・パネルディスカッションなど
・自治体や民間企業による先進事例の紹介
・首都大学東京の留学生によるディスカッション
・総務省によるICT施策説明 など

D7 7階ホール

多言語対応等に関するICTの
技術動向の紹介

D5 5階ホール

ワークショップ
先進事例についての
意見交換・質疑応答 など

D1 1階ホール

主催 2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会
(事務局:東京都オリンピック・パラリンピック準備局)
共催 総務省

 東京都

SCHEDULE スケジュール

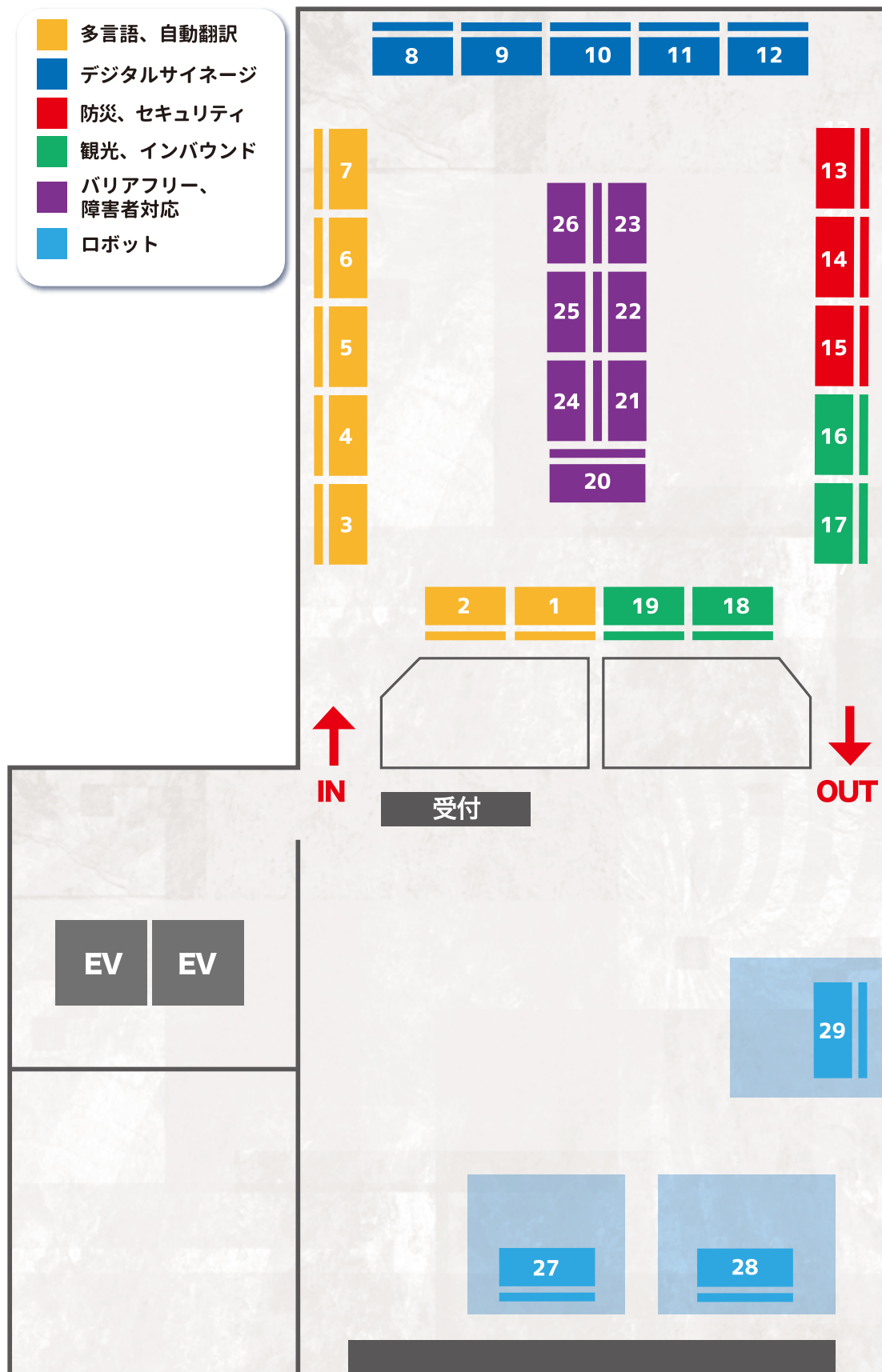
D7 7階ホール

D1 1階ホール

12:30	開場		
13:10 }	開会挨拶 舩添要一東京都知事 遠藤利明東京オリンピック・パラリンピック大臣	13:00 }	パネル展示 内容 多言語対応協議会の取組、 関連施策、先進的事例を紹介 ※13:10～14:35は D7 7階ホールのライブ中継も 行っています。(席数に限りあり)
13:25 }	パネルディスカッション 留学生から見た多言語対応 内容 首都大学東京の外国人留学生が街なかの外国語表記 を調査し、利用者視点からの多言語対応のあり方につ いてディスカッション 出演者 首都大学東京教授 西郡 仁朗 首都大学東京留学生		閉場まで
14:20 }	講演1 2020年に向けた社会全体のICT化推進について 内容 総務省が行う2020年に向けた社会全体のICT化 推進の取組について説明 出演者 総務省		
14:50 }	講演2 地域と連携した「英語少し通じます商店街」の取組について 内容 少しの英語におもてなしの気持ちを込めて、外国人 観光客を積極的に受け入れる雰囲気や地域全体で つくりあげる事業のエッセンスを紹介 出演者 品川区地域振興部協働・国際担当課長 河内 崇	14:50 }	ワークショップ1 社会全体のICT化の推進 内容 総務省(多言語音声翻訳、デジタル サイネージ)及びデジタルサイネージ 専門家による2020年に向けた社会 全体のICT化推進に関する施策紹介 出演者 総務省 デジタルサイネージコンソーシアム
15:15 }	講演3 国連世界防災会議に向けた官民一体の多言語対応の取組 ～震災からの復興とインバウンドツーリズム～ 内容 仙台市は、支援への感謝、復興の発信、風評被害の払拭など のため、今年3月に国連防災会議を誘致。この会議開催に向 けて取り組んだ、官民一体でのおもてなしや案内板、ICTの整 備などの多言語対応について紹介 出演者 仙台市経済局次長兼国際経済・観光部長 嶺岸浩友	15:50 }	ワークショップ2 多言語対応における官民連携の構築・運営 内容 官民連携による取組を円滑に進めるた めのノウハウを現場経験や実績を踏ま え紹介 出演者 (ファシリテーター) みずほ総合研究所(株) エコノミスト 坂中 弥生 品川区地域振興部協働・国際担当課長 河内 崇 仙台市経済局次長兼国際経済・観光部長 嶺岸浩友
15:40 }	講演4 帝国ホテルのおもてなし 内容 海外からのお客様への対応事例を紹介 出演者 (株)帝国ホテル取締役東京副総支配人 金尾 幸生		ワークショップ3 2020年に向けて、今日からできる “おもてなし” 内容 様々な民間の立場から外国人旅行者に関わ るおもてなし実践者が、その心遣いや考え方 接し方などについて具体的に紹介 出演者 (ファシリテーター) みずほ総合研究所(株) エコノミスト 坂中 弥生 (株)帝国ホテル取締役東京副総支配人 金尾 幸生 (株)はとバス代表取締役専務 米田 信悟 やどやゲストハウス運営会社取締役 山本 真梨子
16:05 }	講演5 はとバスの外国人マーケットへの取組 内容 外国語で案内するツアーの歩み、現在の状況 多言語対応とインバウンド対策の課題 出演者 (株)はとバス代表取締役専務 米田 信悟	16:40 }	
17:30	閉場		

D5 5階ホール

- 多言語、自動翻訳
- デジタルサイネージ
- 防災、セキュリティ
- 観光、インバウンド
- バリアフリー、障害者対応
- ロボット



紹介する技術

- 1 海外工場で使用中の実用音声翻訳システム
- 2 専用翻訳エディタとクラウド管理機能を統合した翻訳支援プラットフォーム
- 3 言葉の壁をなくす多言語音声翻訳アプリ
- 4 同時通訳サービス
- 5 スマートフォン・タブレット向け翻訳ソリューション
- 6 インバウンド対応多言語自動翻訳機
- 7 アングルフリー検索技術を活用した情報提示サービス
- 8 サイネージとスマートフォンの連携による情報提示
- 9 Web-based Signage
- 10 交通系ICカードと多言語対応デジタルサイネージの連携
- 11 光ID多言語サイネージ
- 12 照明型プロジェクターによるおもてなし空間演出
- 13 混雑の可視化と緩和に役立つ群衆行動解析技術
- 14 災害対策技術（SNSの情報分析、豪雨・竜巻の早期警戒）
- 15 サイバーセキュリティ技術
- 16 音声対話によるセルフ相談サービス
- 17 マルチデバイス対応多言語観光ルート提案システム
- 18 タブレットを活用した多言語接客ソリューション
- 19 多言語地図対応地域・観光向けモバイルソリューション
- 20 聴障者と健聴者のコミュニケーション支援アプリ
- 21 視覚補助用（ロービジョンエイド）アイウェア
- 22 多言語音声合成と音声による情報配信サービス
- 23 手書き認識やARでリアルタイムコミュニケーション支援
- 24 障害者の安全でスムーズな移動を支援する群衆誘導技術
- 25 車いす利用者と介助者の通過を検知するセンサーシート
- 26 車いす移動を考慮した、多言語公共交通経路案内技術
- 27 多言語対話ロボット
- 28 人間共生ロボットの対話技術
- 29 マスコット搭載型案内ロボット

※紹介する技術は、都からグローバルコミュニケーション開発推進協議会に対して協力を依頼し、自治体職員向けのICTの技術動向の視察受け入れにご協力いただいた企業の技術及び総務省が推進するICT施策に関連する技術を対象としています。

About the Multi-lingual Conference 多言語対応協議会について

目的

2020年大会の開催に向け、受入環境整備の柱である多言語対応を官民一体で推進し、外国人旅行者が快適に滞在できる言葉のバリアフリーを実現するため、平成26年3月設置。

取組状況

平成26年11月、協議会における検討結果を取りまとめ、交通、道路、観光・サービスの各分野における取組方針を策定。現在、本方針に基づき各機関・団体において取組を推進。

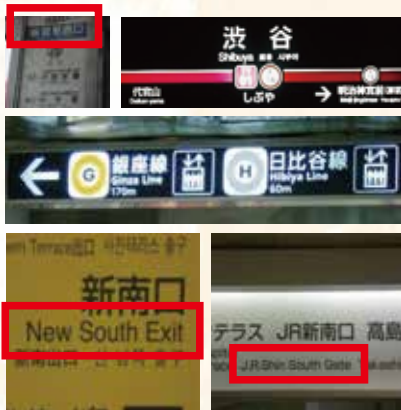


第1回協議会の様子

取組方針の概要

交通分科会

ターミナル駅等において統一性・連続性ある案内表記を実現するため、各取組主体が連携した取組を進めていく。



道路分科会

【車両系】英語表記の改善を推進する。必要に応じて、ピクトグラムや路線番号の表示に努める。
【歩行者系】「案内サイン標準化指針」を踏まえ、観光案内サイン類の充実に努める。



観光・サービス分科会

「国内外旅行者のわかりやすい案内サイン標準化指針」やWEBサイト（EAT東京）等を活用し、各宿泊施設・飲食店が表示・標識等について主体的に取組を進めていく。

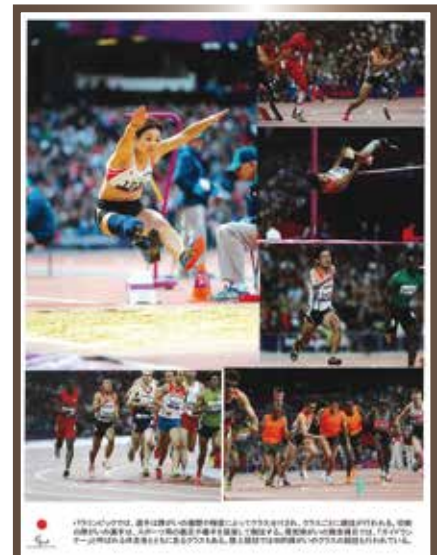


多言語対応協議会ポータルサイト

協議会資料や参考資料へのリンクの他、自治体や民間団体等による取組事例を多数掲載
<http://www.2020games.metro.tokyo.jp/multilingual/>



ロンドンパラリンピック日本選手団の活躍をパネルで展示(D6 6階ロビー)



※(公社)東京都障害者スポーツ協会作成パネル